



自社製CMSも含めて顧客要望に応えた製品群で
作業フロー改善を実現するソリューションを提案

放送・映像制作から教育、自治体、医療など幅広い分野で映像ソリューションを提供する共信コミュニケーションズ株式会社は、Inter BEE 2017でも継続してシステムを一貫して提供するソリューションに力を入れた展示を行った。販売代理店として内外のベンダーの製品を取り扱ったソリューションを展示するほか、今回は自社で開発中のCMS(コンテンツマネジメントシステム)の「DaAlps」も動態展示し、ソリューションを構成する要素のラインアップを一段と手厚く提供することを示した。

ソリューション提供を大きなテーマに掲げる同社にとって、Inter BEE 2017の出展の狙いはどのようなもので、どんな評価をしているのか。共信コミュニケーションズ株式会社 営業部門 副部門長 兼 クリエーション営業部 統括部長の水島 隆氏に尋ねた。



共信コミュニケーションズ株式会社
営業部門 副部門長
兼 クリエーション営業部
統括部長
水島 隆氏

ソリューションをスムーズに提供するため お客様とのコミュニケーションの場を

■出展のテーマと狙いは？

Inter BEE ではソリューションの展示を主体に行っている。これは例年変わらないテーマであり、単品の製品の紹介だけでなく作業フロー全体の改善につながるような提案を行っていきたくと考えている。ソリューション提供をスムーズに行うためには、お客様とのコミュニケーションが欠かせない。そのために、Inter BEEのような展示会の場でも、周囲に展示した製品を見ながら、ゆっくりと打ち合わせや商談ができるスペースは不可欠なものであり、コーヒーなどの飲み物を提供して座って打ち合わせができるカフェ的なスペースを用意している。こうしたスペースを用意しているのは、Inter BEE 全体を見回してもあまり例を見ないのではないかと。

Inter BEE 2017 では、初日、2日目に弊社のお客様企業を集めたユーザー会もブースで実施した。海外ベンダーの開発者とのコミュニケーションを通じて、日本のユーザーのニーズや改善点のフィードバックにもつなげるなど、単なる展示会としてだけでなく、お客様とのコミュニケーションの場としてもInter BEEを活用している。



■8Kのシステムの連携や自社製CMSをアピール

ソリューションは、『8K・4K/HDR/VR/リアルタイム・フィニッシング』『超高速共有スケールアウト・ストレージ』『Contents Management』『220インチ4KLEDディスプレイ』『Audio&Video Broadcast Editing』『Archive』の6分野で展示した。中でも注力しているのが、8Kを含む編集システム。共信コミュニケーションズが日本総代理店を務めるスペインSGO社のポストプロダクトソリューションの『Mistika』では、8K・4Kのワークフローを提供する。Inter BEE 2016の時点でもMistikaは8K編集に対応していたが、今回は高速な共有ストレージを介して他のシステムと連携が可能になるなど、8K編集システムとして整備が十分に進んでいることをアピールした。

Mistikaでは、SDR映像とHDR映像を同時にモニター出力できる。SDRとHDRを同時に確認できるため、作業の効率向上につなげられる。また素材は、カメラの圧縮フォーマットをそのまま採用することで、小容量のストレージでも長時間のデータを記録することができる。圧縮データにより、保存や再利用が可能になっている。

今回のもう一つの目玉は、自社で独自に開発したCMSの『DaAlps』の動態展示だ。CMSのアプリケーションは多く提供されており、共信コミュニケーションズでも海

外製品を扱っていた。しかし、海外ベンダーは合併や買収などが頻繁で、継続した開発が保証されない。そこで自社でDaAlpsを開発し、試作品を出展した。今回が本格的な動態展示として初めての機会となる。2018年4月の提供を目指している。

DaAlpsは、お客様の要望を聞きながら開発した。アーカイブでは、テロップデータをメタデータとして使えるようにするため、人工知能(AI)を使って映像上のテロップの文字を認識してデータ化する機能を搭載する。テロップデータの“メタ付け”の作業を軽減することが目的だ。音声認識による音声のデータ化も検討を進めている。

■最大のイベントと位置づけて継続した出展

共信コミュニケーションズでは、年間20近いイベントに出展する中で、Inter BEEを最も重要なイベントと位置づけている。来場者も多く、既存顧客だけでなく新規顧客も含めて反響が大きい。それだけに、継続して出展する意義があると考えている。今年は特に2018年12月に4K・8K実用放送が始まることを受けて、準備の意識が高まってきていることもあり、来年(2018年)以降の案件につながるコミュニケーションが進んでいる。

今回のブースでは、初めて天井照明で『全消灯』を選ん

でみた。これが前回との大きな違いだった。全消灯のブースは思った以上に良い印象があり、今後の出展時にも検討していきたい。Inter BEEには、内外の関係企業が集まっている。自社製品の開発、販売を手掛ける上で、業界のトレンドを確認することができる貴重な場であるとともに、製品やサービス開発で連携できるパートナーを見つける機会であるともうらえている。

Inter BEEは、新しい出会いの場でもあり、また既存のお客様とつながる場でもある。こうしたつながりやコミュニケーションを今後も大切にして出展していきたい。